令和３年度　栃木市教育研究所　研究所員研修会　研究記録カード

１　部会名	教材開発　　部　　会		
２　研究員	小学校　３名	中学校　２名	事務所員　３名

３　研究テーマ

子どもの思考を深める教材の使い方

４　研究の取組

（１）研究内容

①　教材の見方の工夫　⇒　子どもの思考を見取る提供の仕方など

②　思考を深める工夫　⇒　教材の難易度や指導方針，手立ての検討など

③　思考の見える化　　⇒　思考の過程を紙媒体や画像データ，子どもの説明などで共有する

以上の事を適宜，発信する。

（２）研究のあゆみ

月　日	実践内容	月　日	実践内容
5月10日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	10月21日	授業研究（小学校での実践）
6月21日	研究テーマ・内容の協議、計画作成		
9月15日	授業研究（小学校での実践）	11月22日	授業研究（小学校での実践）
10月1日	第3回研修会・指導案検討		
	テーマに沿った事例紹介	2月10日	３年次報告提出

５　研究の成果と課題

【成果】
- 少しの手間を加えることで児童生徒の興味関心が高まった。児童生徒の実態に合わせて単元の順番を変えることで，理解がしやすくなり思考の深まりにつながった。教師側も見方を変えることで新たな発見が得られた。教材を見る視野が広がった。
- ICTと言語活動を組み合わせによってアウトプットを意識した授業を提供したことで児童生徒の思考が深まった。教員から提供する例示を必要最低限にすること（情報のコントロール）により，思考の深まりが得られた。思考の余白を意識することで，児童・生徒の自由な発想を引き出すことができる。
- 思考の流れがわかる教室掲示を作成することで，いつでも振り返りを行うことができた。同じ内容の授業であっても，ワークシートの工夫次第で児童生徒の思考の現れ方が変わってくる。

【課題】
- 難易度の設定や考える時間の確保。
- 教師がヒントを与えすぎてしまい，思考を奪ってしまう。待つことも必要だが，個人差が大きいので時間をどこで区切るかが難しい。
- 工夫を凝らしても，教師の発問や声掛け次第で児童生徒の思考を停滞させてしまうことがある。

６　さらに研究していきたいこと・次年度の構想

- 様々な教材で見方や提供の仕方を変え，蓄積を増やして共有していく。
- 「思考の余白」について，ねらいをもった授業をしていきたい。
- 教材開発から教材デザインという意識で，日々の授業を提供していきたい。